日本大學 農獣醫學部 校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報編集委員会
印刷所
東京藤工ＫＫ

天皇・皇后両陛下がご臨席のもとに開かれた創立100周年記念式典（高輪プリンスホテルで）

新世紀へ新たな一歩

天皇・皇后両陛下がご臨席

百周年記念式典を開く

明治二十二年、日本法律学校として第一歩を踏み出してから一世紀、本学は平成元年十月四日創立一〇〇周年を迎えた。

記念式典は、天皇・皇后両陛下が御臨席になり、東京・高輪プリンスホテル・プリンスルームに各界の来賓、海外学術提携校の総長夫妻はじめ、本学校友、教職員、学生・生徒代表ら約千人が参列して挙行された。式典は午前十一時から沖田常務理事の司会で始まり総長の式辞、来賓の祝辞に続いて、天皇陛下から「国内はもとより、広く世界の様々な分野において、人類社会に貢献する人々が、ますます多くこの大学から送り出されることを切望します」とお祝いの言葉をいただきました。

厳粛な雰囲気の中で厳行われた式典に続いて、祝賀会は後一時から、新高輪プリンスホテル「飛天の間」を会場に約三千五百人が出席して華やかに開かれた。本学OBで元NHKアナウンサー二宮正夫さんの司会で進められ、高梨総長のあいさつ、来賓の祝辞や祝電披露のあと、桜の花に「日大」と銘うったデザインの樽酒が飾られ、司会者のかけ声に、会場の出席者全員が呼応して盛大な鏡開きのあと、日本科学振興財団理事長、清水氏のご発声で乾杯となった。和やかな歓談の中、十七の海外学術交流提携校の学長・校長夫妻らがそろってステージに登場、紹介があり国際色豊かなパーティーとなった。大型スクリーンには本学百年の歩みを紹介するスライド、創立百周年記念ビデオが上映された。芸術学部合唱団の校歌斉唱に会場内の参列者全員が同調し大合唱が沸き上った。

最後に国学院大学理事長、佐々木氏のご発声で、高らかに日本大学万歳を三唱、木下副総長の閉会のあいさつで祝宴の幕を閉じた。

天皇陛下のお言葉

日本大学が創立100周年を迎えるに当たり、皆さんと共に、その式典に臨むことは、誠に喜ばしいことであります。

日本大学が日本法律学校として設立された明治22年は、我が国において初めて憲法が発布された年に当たり、法体系の整備、運用に関連する教育の緊要性は、極めて高いものがあったと思われます。以来今日まで、日本大学が、我が国社会の各分野において、国の発展と国民の幸福に寄与する幾多の人々を育ててきたことは、深く多とするところであります。

大学は、今日の社会の要請にこたえるとともに、未来をも目指した教育、研究の場として、重大な使命を担っています。国際社会の一員としての我が国の役割が一層重要性を増してきている現在、国内はもとより、広く世界の様々な分野において、人類社会に貢献する人々が、ますます多くこの大学から送り出されることを切望します。

日本大学が、100年の歴史の上に新たな一歩を踏みだすこのとき、その将来の一層の発展に期待して、お祝いの言葉といたします。

日本大学創立100周年記念事業として建設される農獣医学部図書館（藤沢）予想図

日本大学 農獣医学部校友会役員

日本大学副総長 農獣医学部長 名誉会長　門田　定美
会長　庄川　洋一（拓植）
副会長 広報担当　茂澤　杲（農化）
副会長 庶務担当　一川　宏也（農工）
副会長 会計担当　野田　義人（食工）
理事　西鳥羽　曙（農学）
〃　宮浦　敏磨（農学）
〃　坪木　良雄（農学）
〃　江刺　琢磨（農化）
〃　木嶋　弘倫（農化）
〃　田中　延吉（獣医）
〃　日比野次郎（獣医）
〃　白井　弥（獣医）
〃　倉田　裕司（畜産）
〃　大橋　昭也（畜産）
〃　小牧　弘（畜産）
〃　佐藤　弘一（食経）
〃　三木　敏夫（食経）
〃　伊豫　軍記（食経）
〃　鹿野　忠（林学）
〃　片岡　寛純（林学）
〃　大川富士雄（林学）
〃　添田　秀男（水産）
〃　日野　演彦（水産）
〃　奥本　直人（水産）
〃　吉川　宏一（農工）
〃　辻　厚志（農工）
〃　中村　清一（食工）
〃　青井　幸雄（食工）
〃　岡田　正男（拓植）
〃　木村　正之（拓植）
〃　冨沢　寿樹（短農）
〃　山本　正義（短農）
〃　斎藤　忠雄（短農）
監事　山根　勝次（食経）
〃　川口　武志（獣医）
〃　岩間　脩（畜産）
事務局長　高坂　鉄雄（食経）
庶務　本江　一郎（林学）
〃　世良田和寛（農工）
会計　木村　貞司（畜産）

平成元年度総会と懇親会

「都ホテル東京」で開催

来賓と校友が一堂に会し歓談

年号も改った平成元年度の、本校友会総会と懇親会が、七月八日(土)港区白金台の「都ホテル東京」で開催された。

総会は十五時三十分より「螺峨の間」において、会長があいさつのあと議長に選出され、議事に入った。

第一号議案では、高坂事務局長より昭和最後の年度一年間の経過が報告された。

昨年は本校友会創立四〇周年記念関係の事業に努力を傾注したこと。本年は日本大学創立一〇〇周年記念事業に校友会も全面的に協力しなければならない旨が強調された。

第二号議案の会計決算は、一九七〇万五六八七円の収入に対し、支出総額は一八二三万四五二〇円で、次年度への繰越金が一四七万一六七円であるとの報告が、木村会計担当よりなされ、満場一致で承認された。

第三号議案の平成元年度予算は二二一九四万一一六七円の収入見込みであるが、年々財政状況の悪化が予測されるので、会費検討委員会を設置してはとの意見もあったが、事務局原案通り承認された。

前号までは、予算・決算書の写しをそのまま掲載しましたが、今号から紙数の関係で割愛させ得なくなりましたのでご了承ください。

最後に村田千夫大阪支部長、逗勝晴出山梨県支部長の各支部活動状況報告をもって総会を終了し、懇親会に移った。

本年度の懇親会は、十月四日の日本大学創立一〇〇周年の祝賀を兼ねて行うものであり、このお慶びをご列席の皆様とともに分ち合いたいとの司会者の開会の辞につづいて、庄司農獣医学部校友会長あいさつ、日本大学および農獣医学部を代表して門田農獣医学部長、東丸日本大学校友会本部事務長の祝辞のあと、森農獣医学部事務局長のご発声で乾杯閉宴となった。百数十名の来賓と校友が一堂に会し、時間を惜しみながら和やかな歓談が続いた。

門田学部長　副総長に就任

門田定美学部長は平成元年九月一日付で、日本大学の事務および入学担当の副総長に任命された。校友として大変喜ばしいことであります。

副総長としてのご活躍とともに、校友のご支援をもあわせてお願い致します。

山澤教授が学務担当

松坂前学務担当が併設校である鶴ヶ丘高等学校長に就任され、新たに学務担当には山澤芳春教授が就任なされた。

学務担当　山澤芳春(六十六歳)
日本大学法文学部専門部拓殖学科卒
日本大学法文学部法律学科卒
東京大学農学部農業工学科卒

農学博士　担当科目農業機械学

学部人事異動

平成元年十一月一日付本部人事異動に伴い、庶務課長補佐に中田利道本部人事部給与課長補佐、藤沢校舎教務課　課長補佐に相場幸男商学部教務課　課長補佐が任命された。同時に松浦展寿庶務課長が商学部事務長に、大磯治彦庶務課主任が本部人事課主任に任命され、転勤となった。

農学校友会

◇農学科◇

平成元年度　事業・予算案承認

総会に代る幹事会を藤沢校舎で開催

平成元年度の総会に代る幹事会は平成元年八月二十四日(土)、藤沢校舎で開催され、昭和六十三年度の一般経過・会計決算の報告と平成元年度事業・会計予算案が検討審議され、承認されました。

議事終了後、学科内の現状が石井賢治教授(学科主任)より報告されました。引続き行われました懇親会では、学科教員と幹事諸兄が懇談旧交を温めました。

なお、校友会事務局庶務係の井上亜明先生が三月よりアメリカに留学されましたので、事務局の二係(会計・庶務)担当者が、左記の通り変りました。学内外の諸事何かとご多忙の折、ご無理をお願いいたします。

平成元年八月三十一日現在の農学校友会事務局役員は次の通りです。

事務局長　・　篠原　正行
会計係　野村　和威
庶務係　岩野　秀俊

◇学内の動き◇

【学生の研修旅行】

恒年恒例で実施しております一年生の研修旅行、今年は内容を、よりオリエンテーションに重点を置いたものとして一泊二日、南伊豆を中心に行われました。農学科・農学・それぞれの研究室等について教員・在学生(四年生)を交え、いろいろ討論し、勉学や生活のしかたを知ることができるものと思います。一八〇名余の一年生は十六名ほどの先輩学生とも有意義な二日間を過しました。

【入学・卒業・就職】

農学科学生の在席数は六月三十日現在で六八〇名です。一年生は昨今のバイオブームも関連してか志願者も多く、厳しい競争を勝ち抜いて一八〇名余の優秀な人材が入りました。初心を忘れず大いに頑張ってほしいと思います。

5月14、15の両日行われた1年次研修旅行(于田臨海実験所訪問)

今春は一五〇名の卒業生を送り出し、新たな校友の仲間入りをしました。好況を導して就職結果もよく、国家公務員一種(環境庁)をはじめ、多くの分野に優秀な人材を送り出しました。農学科で培ったものを生かし、実社会で大いに頑張ってほしいと思います。現在四年生の学生諸君へ(一八九名)も先輩に続け、とばかり就職や卒論研究に一生懸命取組んでいます。来春また嬉しい結果が大いに期待されます。

【終身会費納入を】

これまでにご報告の通り、農学校友会は終身会費制(一万円)になりました。校友の方でまだ未納の方は何とぞよろしくお願いいたします。詳細は、農学校友会会計担当・野村和威(畜伝育種研)までお問い合わせください。

(勝野武彦)

試験場視察の折に

リバーサイドでの果実研究

25期　井上弘明

昭和六十三年度長期海外派遣研究員として、今年三月よりカルフォルニア大学リバーサイド校に「亜熱帯果樹アボガドの開花・結実及び成熟生理に関する研究」のため一年間の予定で滞在しております。

大学はロスアンゼルス市より東に百キロのリバーサイド市にあり古くからオレンジやアボガドの主産地でもあります。五百ヘクタール(農場も含む)の広大なキャンパスに、自然科学・農学部の学生約五千名が学んでおります。私の所属しております植物科学科は学部の中で最も古く、主に産地と直結した、オレンジやアボガドの栽培生理、新品種の育成、ポストハーベストなどの研究を行っております。

私は夏学期、大学院の学生とともに講義を受講したり、研究室での実験と、多忙な日を過しました。講義時間の三分の一は質疑応答の時間で、アメリカ式の講義に初めは驚きましたが、特別ゼミナールとして、ゼミの授業はおもしろく、自分の順番が来ると緊張し、学生時代を思い出しました。早口の英語には閉ってしまいました。

植物科学科の組織は、教育教員(学生指導)と研究教員(農業指導)の二本立てから成り、試験場の研究者は大学の中に入っているようなものです。助手は七年間で再任はなく、また他大学へ職を求めなければなりません。採用も公募で、ほとんどリバーサイド校出身者はおりません。研究内容も実際栽培を基盤としたテーマなので産業と結びつき、すぐに普及活動に入ります。学理面と応用面が実にうまく結び合っています。

夏休みに入ってからは学生の代りに農家の指導もあり、教員の人達は忙しく、論文のまとめやデータ整理に没頭しております。事務局も教員の採点、評価をしていてあらためてアメリカの大学制度と研究業績本位を見せつけられています。

南カリフォルニアの夏は砂漠性気候なので朝夕は涼しいですが日中になると時々四十度に近くもなり、毎日が猛暑の連続です。今は頭や手が真黒になり、マーケットに行きますとメキシコ人が東南アジア人に間違えられてばかりいて、誰も日本人と信じてくれません。

厳しい砂漠性風土の下での果樹栽培を体験し、日本の恵まれた自然環境を再認識しております。

農産物の自由化、特に「米」はアメリカ人の主張と思っておりましたが、実際は米の流通業者が大騒ぎをしており、アメリカ食品流通を操る人達が政府に圧力をかけ日本に米の輸入を強要させているようです。この点には人間的な魅力もあるように思えます。

夏休みに入ってから産地視察をする機会があり、ロスアンゼルスから北上し、サンフランシスコ周辺まで車で回りました。カルフォルニアの広大な土地も、所々、休耕地が目立ち「土地売ります」の看板もあり、沢山農作物を作ってダメな時代に入ったようです。やはり「良品質」の時代です。ロス周辺は柑橘果樹、中部は野菜と落葉果樹、サンフランシスコ周辺は米と野菜に区分けされます。労働力は常にメキシコ人で、機械化しても収穫は人手が必要です。最近圃場化しているのはボケのことで、コロラド川よりの灌ガイは水代が高く農家も困っているようです。

以前のような「大金持ち」になる農業はなくなったように思います。日本の農業も厳しくなっていますが、アメリカも悩んでいます。

学究生活もはや六ヶ月が過ぎ、貴重な体験や新知識を帰国後、学科の教育・研究に少しでも還元したいと考えております。来春帰国するまで、さらなる努力を重ねたいと考えております。最後に、海外派遣の機会をこれまで下さった大学当局、并びに校友の皆様に心よりお礼申し上げ、皆様のご健勝を祈っております。(八月二十日・リバーサイド校にて)

紫友会

◇農芸化学科◇

日大百周年と農芸化学科

学科主任　石井　謙二

平成元年は本学創立百周年の記念すべき年であるが改元による新しい元号の始まりの年でもあり、また社会的にも不思議に大きな出来事が続いた年でもあった。この記念すべき時に農芸化学科の過去をふり返り、将来の発展への決意を新たにするのも意義のあることである。

農芸化学科も設置以来、三十年ほどを経たが、この間農芸化学の技術の驚異的な進歩により、バイオテクノロジーブームがまき起こり、それを反映して学科の入学志願者もここ数年、二千名の大台を超えている。それだけに本学科に対する社会の期待の大きいことに責任を痛感する次第である。

この社会の期待と技術革新に対応できるように、本学科では昭和六十三年度より新カリキュラムを実施した。実験化学である農芸化学の研究は、机上の論議だけではどうにもならない。実験による技術の習得が不可欠である。そのため、本学科の教育の特徴は実験教科と卒論研究の重視である。幸いに学部当局の御理解をいただき、学生実験機器の整備一新を実行中である。

いまや、技術的には自然現象の分子レベルでの理解が普遍化し、コンピューターによる研究情報の処理が日常化しているハイテク時代になった。教員に求められるのはいわばソフトウェアの創造であり、そのために新しい学問領域への踏み込みと、その学生教育への反映に努力を重ねる決意である。

新任教員紹介

伊藤定一郎教授
大正十四年生まれ。
東京大学 農芸化学 科卒業（昭三三）明治製菓（株）中央研究所において医薬品の研究開発に部長として携われた後、平成元年四月より主率していたがことになった。

長谷川功寛任講師
昭和二十一年生まれ。
本学農芸化学科卒業（昭四四）日本重化学工業（株）化成事業部において化成肥料の研究開発に課長として携われた後、平成元年四月より現職、植物栄養生理学研究室に着任。

学科人事

山本一彦助教授（土壌学研究室）が平成元年四月より教授に昇格された。

松坂泰明教授（土壌学研究室）が平成元年四月より鶴ヶ丘高等学校校長を兼任されることとなった。

日大百周年と紫友会三十五周年

紫友会会長　茂沢　昊

平成元年十月四日、母校は創立百周年を迎え、高輪プリンスホテル・プリンスルームにて天皇、皇后両陛下御臨席のもと、国の内外から各界の代表される多数の方々の御出席をえて、厳粛華麗な中に記念式典が挙行されました。特に陛下からは、日本大学の教育研究により幾多の有能な人材を育成され、日本国家発展に貢献されていることを多くとされ、今後一層日本大学の発展を期待するお言葉を賜わりました。大学と校友は二十一世紀を創造する者となることを願って、一層の努力を続けることをこの式典において誓いました。

更に会場を飛天の間に移し、三千五百余名からなる参加者のもと盛大に祝賀会が開催されました。

私がこの式典と祝賀会に臨み強く感じましたことは、大学と校友の間には非常に濃い相互関係が厳然と生きているということでありますが、まさに校友ではないかと思います。日本大学の評価が高くなるとその日大を卒業した校友の評価も高くなります。良きにつけ悪しきにつけ、現在の大学の評価が校友個々人の評価に及ぶという側面があります。

さて、紫友会は本年をもって創立三十五周年を迎えました。振り返って、昭和五十九年に創立三十周年を盛大に開催してより、私達校友は一年一年を大切にいかにして「誇りの実」を挙げるかを恒常的テーマとして力強く展開してきました。ここに三十五周年を記念して小誌を刊行しました。この意味は、過去五年間の歩みを記録整理し、所蔵資料と情報を会員各位に提供し、現在の紫友会を認識していただきたいためです。小誌ながら編集委員の御努力により中味の濃いものとなっています。

更にこれをステップとして四十周年に向けて、一層紫友会の発展をはかりたいからです。

会員各位におかれましては、今後とも紫友会に格段の御協力をお願い申し上げる次第です。

（有賀豊彦・高橋伸二）

昭和63年度総会と懇親会を母校で盛大に開催

昭和六十三年度の紫友会総会・懇親会は、昭和六十三年十一月二十六日（土）に本学東京校舎において開催された。

門田学部長はじめ学部関係の来賓にも多数ご臨席いただき、また母校を会場にしての総会懇親会ということもあり、例年にも増して多数の会員の出席を得て盛大裡に無事終了した。

優勝チームに紫友会杯

研究室対抗ソフトボール

紫友会では準会員である現役学生に対して、毎年秋に行なわれる研究室対抗のソフトボール大会の優勝チームに紫友会杯（写真）を

また各チームに賞品を提供している。準会員に対して紫友会の存在をアピールするその効果は高く、例年熱のこもった試合が繰り広げられている。

なお、最近十年間（第九回～第十八回）の優勝チームは次のとおり。

昭和五五年　酵素化学研究室
昭和五六年　食品化学研究室
昭和五七年　生物化学研究室
昭和五八年　食品化学研究室
昭和五九年　栄養生理化学研究室
昭和六〇年　食品化学研究室
昭和六一年　栄養生理化学研究室
昭和六二年　栄養生理化学研究室
平成元年　微生物学研究室

訃報

既に会員各位にも御承知と存じますが、平成元年二月十日に白井和雄教授（生物有機化学研究室）・旧生物化学）が心不全のため逝去されました。白井先生の長年に渡る御教示、御指導に対して心から感謝しあげるとともに、先生の御冥福を紫友会会員一同心からお祈りいたします。

（有賀豊彦・高橋伸二）

角笛会

◇獣医学科◇

角笛会の活性化を目指して

日本大学会館で総会

平成元年度の角笛会総会がさる六月三日、日本大学会館において開催されました。出席者は二十五名、委任状は六十二名の会員よりいただきました。総会は中延吾会長のあいさつのち、議長に加藤雅尚愛知県支部長が選出されて議事に入り、月瀬東事務局長より昭和六十三年度事業報告、昭和六十三年度決算報告がなされ、次いで平成元年度事業計画、支部会員費の値上げ、平成元年度予算、役員の一部改選および付帯決議などが審議され、それぞれ承認されました。

今回の総会において提案された事業計画は、支部活動と本部（大学）との交流を活性化する、支部組織の充実、全国事務局長会議の開催、財政の安定強化、および名簿の販売促進など、角笛会活動の活性化を目指したものであり、その成果が期待されます。

総会終了後、同会館において庄川洋一農獣医学部校友会々長を初め、多数の来賓および会員の出席を得て懇親会が行われ、歓談ののち、島田幸治顧問の音頭による万歳三唱をもって盛裡に閉会しました。

角笛会総会（上）と同懇親会

◇学科の近況◇

角笛会報五号でお知らせしましたが、平成元年三月から四月にかけて獣医学科では下記のような人事がありました。

佐久間勇次教授（獣医生理学）は三月二十一日付で学部執行部就職指導担当に再任され、武石昌敬教授（獣医臨床繁殖学）は四月一日付で家畜病院長に再任されました。岡野真臣教授（獣医解剖学）は岩手実習場長に、望月公子教授（実験動物学）は学院専攻主任に、大田亨二教授（獣医臨床病理学）は獣医学科主任に、それぞれ四月一日付で就任されました。

草場治雄専任講師（獣医外科学）は学院専攻主任に、望月公子教授（実験動物学）は学院専攻主任に、それぞれ三月一日付で就任されました。

直井昌之助手（同）、斎藤郁助手（家畜病院）、中山康子副手（魚病学研究室）、加藤明美副手（獣医生理化学研究室）、勝倉夕佳副手（獣医ウイルス学研究室）、塩田ゆみ副手（獣医寄生虫病学研究室）、鷲津伸絵副手（獣医伝染病学研究室）の方々が、三月三十一日付で退職されました。

新任としては、四月一日付で小坂俊文助手（平成元年三月、大学院獣医学研究科博士後期課程修了・獣医学博士）が獣医放射線学研究室へ、鵜沢信一助手（昭和六十二年三月、同博士前期課程修了）が家畜病院へ、平野田佳副手（日大水産・平成元年三月卒）が魚病学研究室へ、小島千恵副手（日大農芸化学・同三月卒）が獣医生理化学研究室へ、小野真彩子副手（日大農芸化学・同三月卒）が獣医伝染病学研究室へ、石川亜美子副手（日大水産・同三月卒）が獣医病理学研究室へ、それぞれとられました。

なお、九月一日付で、上床和弘助手（平成元年三月、大学院獣医学研究科博士後期課程修了・獣医学博士）が、獣医ウイルス学研究室にとられました。

田中茂明助教授は、獣医放射線学研究室から獣医外科学研究室へ移動され、獣医外科学および同実習を担当されております。

藤沢校舎で東京獣医畜産学会が

日大地区担当による平成元年度東京獣医畜産学会（井上貞担当学会長）が、さる八月二十七日に藤沢校舎において開催されました。

当日は台風接近による悪天候にもかかわらず、学内外より多数の方々が参加され、盛大な学会となりました。今回は一般講演三十四題（応用系十一、臨床系十二、基礎系十一題）、シンポジウム二題（オーエスキー病の現状と将来および小動物の画像診断の現状と今後の方向）より成り、最新の知見が披露されました。

学会終了後は食堂棟において懇親会が行われ、会員相互の親睦を一層深めました。

講演する会員

呉守一名誉教授が勲三等瑞宝章受賞

日本大学名誉教授である呉守一先生が、このたび勲三等瑞宝章を受章されました。呉先生は東京帝国大学を卒業され、昭和二十一年より日本大学に勤務され、畜産学科と獣医学科で教鞭をとられました。

呉守一名誉教授

先生のご専門は獣医病理学で、昭和六十一年三月に定年退職されるまでの約四十年間に、幾多の優秀な人材を育てられました。今回の叙勲は先生の長年にわたる功績に対し授与されたもので、まことに喜ばしい限りです。先生のますますのご健康を心よりお祈り申し上げます。

湘南海岸で新入生の歓迎会開く

平成元年度入学の獣医学科一年生を対象とした歓迎会が、四月二十九日、湘南海岸で行われました。地引網やバーベキューなどを

新入生の歓迎会

教員・学生がともにするこの歓迎会も三年目を迎え、恒例の行事となった感があります。

入学後間もない新入生にとって教員や友達との親睦を深めるよい機会になったことと思います。

恒例の牧場実習

2年生百三十三名が参加

平成元年七月十七日から約一カ月にわたり、武石昌敬教授、大場茂夫専任講師および高木晋助手の引率のもと、北海道中標津町を初め各地において恒例の牧場実習が行われ、二年生一三三名が参加しました。

実習風景

（佐藤常男）

満喜葉会

◇畜産学科◇

☆――学科だより――☆

〈人事〉

平成元年四月より、次の二名の教員が着任されました。よろしくお願いいたします。

専任講師
小林信一　一九五一年二月九日生まれ、38歳
学都京大学農部畜産学科卒、同大学院修士課程（農業経済学専攻）、名古屋大学大学院博士課程（農業経済学専攻）修了、全国農業協同組合連合会飼料畜産中央研究経営研究室、本所畜産総合対策部畜産経営対策室を経て、本年二月末までオーストラリア国立大学に研究留学。担当科目　畜産立地論、農業経営学。

助手　田中淳一　31歳。昭和五十六年本学畜産学科卒業。平成元年高知医科大学医学研究科博士課程修了。担当科目　飼料学実習。

なお、同君は平成元年十一月三十日より、一年間の予定でアメリカ、UCLA、心理学部の脳研究所へ留学されて。

姫野教授が畜産学科主任に

平成元年四月一日からの畜産学科主任は姫野健太郎教授に決まった。改選期となった畜産学科主任は、前主任長野寛教授が二期四年間つとめられ、とうたかが次の方へと意欲を述べられるという背景の中で選挙がおこなわれ、姫野健太郎教授に決定した。同教授の任期は平成二年度末までの二年間。

畜産学科就職懇談会を開催

畜産学科三年及び四年次を対象とした就職関係の講演会、通称就職懇談会が平成元年五月十二日に五人の講師を招いて藤沢校舎第一講義室において行われた。この講演会は、いわゆる企業説明会というものではなく、学生の就職するに当たっての心構えやいろいろな分野（業界）の現状あるいは将来性、試験合格のノウハウなど教員ではカバーできない部分の話が聞ける良い機会であり、学生は授業まで熱心に聞き入っていた。講演終了後は場所を第二食堂に移し、学科教員との懇談会を行い、貴重なご意見やアドバイスをいただき実のある会であった。本年の講師は次の方々である。

本沢延介氏（栃木県農業試験場技師）
高瀬博氏（神奈川県立相模原高校教諭）
清水敬介氏（サンド薬品株式会社開発課長）
木村勝起氏（㈱オールインワン代表取締役社長）
島谷　晃氏（㈱日本ハム取締役部長）

計報

元農獣医学部教授（研究所）・名古屋大学名誉教授中條誠一先生は、平成元年十一月十五日に表記のために逝去されました。

先生は宮城大学、名古屋大学教授として教鞭をとられた後、昭和四十八年本学部畜産学科の家畜繁殖学研究室に教授として就任され、五十三年までの五年間に多くの優秀な人材と研究業績を輩出されました。

平成元年度理事会・幹事会開催

平成元年度における第一回の満喜葉会理事会及び幹事会が五月十四日午前十一時より農獣医学部藤沢校舎第一会議室において行われた。会出席司会長のあいさつの後、①昭和六十三年度経過報告（報告者、事務局営業常務）②昭和六十三年度決算報告（報告者、事務局羽鳥羽美次）、会計監査報告（監事田鶴良次郎）③平成元年度事業計画（営業常務）④平成元年度予算（羽鳥羽美次）が承認された。

続いて、⑤毎年行われる本会の理事、幹事会に多く出席されない理事、幹事特に幹事の確認と見直し⑥今後の会報のあり方の二点について活発な論議された。その結果、⑤については、③の幹事会員に承諾書を提出していただく③出席が困難である場合は同期のどなたかを推薦していただくこととした⑥については、何ページが適当か学部校友会報との関係、会員増加による印刷費や発送費の問題など種々の意見が述べられたが、今後さらに検討することとして議事を終了した。その他、日本大学百周年関連等若干の報告が行われて閉会した。当日は畜産学科新入生歓迎会も行われており、閉会後合流して懇親会を行い、楽しいひとときを過した。

第二回の理事会・幹事会は十一月十一日午後一時より藤沢校舎第三会議室において開催された。議題は①満喜葉会幹事の確認②平成二年度満喜葉会総会について③その他であった。①については当日まで幹事を承諾された方は二十六名、辞退一名、無回答六十九名だった。

また、二、三年前から話題になっていた茨城満喜葉会は本年度の昭和六十三年十二月十七日、水戸市の三の丸ホテルで設立総会を開き結成された。総会には日本大学創立一〇〇周年のシンボルマークを表紙にあしらった大変立派な食料が配布され議事がすすめられ、会長に大島昌夫氏（27年卒、茨城県畜産試験場長）、副会長に北川恵二氏（31年卒、茨城県経済連食肉センター長）、事務局長に市村　章氏（45年卒、茨城県酪連購買課長）その他理事・監事を決めた。この会は川又　悦夫氏、市村氏らが事務的な準備をすすめて行われ、金木信義氏（26年卒）、石川　明氏（27年卒）大先輩、紅一点の柴田ひろこさん（60年卒）らが出席したが、畜産茨城県としての自負のもとに今後会員拡大を中心に大いに活躍することを誓っていた。

なお、平成元年六月第二回目の懇談会が行われた。

第二食堂で開かれた懇親会

島根と茨城で新たに分会が発足

山陰地方ではじめての島根満喜葉会は昭和六十三年十月十九日出雲市の島根厚生年金会館で設立総会を開きめでたく誕生した。

発起人には岡崎一、有馬卓哉、吾郷隆司氏がなって準備がすすめられたもので、総会には十四名が出席、会則決定の後、役員の選出が行われ、会長に曽田修一氏（旧姓竹下、竹下測量調査㈱）専務取締役、四十三年卒）、事務局長に吾郷隆司氏（島根県畜産会、五三会議室）が決まった。はじめて顔をあわせる会員が多かったが、懇親会にはすぐにうちとけあい極めてなごやかな雰囲気となり、二次会、三次会と出雲の夜を楽しんだ。

森本宏先生の喜寿祝賀会を開催

森本宏先生の喜寿の祝賀会が、平成元年八月八日学士会館において開催された。

先生は満喜葉会の特別会員であり、定年退職されたとき話題の祝賀会を開催いたし、研究室卒業生がお祝いに遠方からも数多加されました。あれから七年、平成元年、森本先生は喜寿を迎えられ、先生の奥様（方里さん）も古希を迎えられて、ご夫妻をかっておめでたい歳となられました。このようなおめでたい席に皆様をお呼びして和を大きくすることはこの上もない喜びであります。家畜飼養学第二研究室卒業生、農水省畜産試験場関係者、科学飼料会関係者ら先生の教えを受けた多数参加され、久方ぶりに森本先生の笑いを見て会は感況のうちに閉会し、元気に再会を願って散会した。

また、各々2次会、3次会にとネオンの街に消えて、昔の懐かしき研究室生活の思い出談義を開催した模様。

（泉水宣人）

いもづる会

◇食品経済学科◇

平成元年度の総会と懇親会開く

就職指導の講演や相談も

平成元年度総会・懇親会が去る六月三日（土）午後四時三十分より東京校舎二号館および同食堂において開催されました。

本年七月の第一土曜日に固定されてきた総会・懇親会の日程が一カ月繰りあげられたのは、より多くのOBが総会・懇親会に出席できるよう、中元商戦と重ならないよう配慮したものです。

また、本年度は総会・懇親会に先立ち、学科との共催で就職指導講演会を午後二時三十分より開催しました。就職講演会は就職戦線にのぞむ四年生を対象に、既に社会で活躍されているOB会員の就職体験を通して、就職にのぞむ心構えや就職試験のノウハウを体得してもらおうとの意図から企画されたものです。

当日は、比較的卒業年次の若いOB会員を中心に、企業や官庁等で活躍している六名のOBの協力を得て、熱気に溢れた講演会となり、延べ百余名の学生が参加しました。

就職講演を聞く4年生たち

就職について語る講師

就職講演会終了後、引き続いて懇親会場横の学生食堂に、就職相談コーナーが開設され、「〇〇会社コーナー」「一般相談コーナー！」などを設けて企業の求人（入事）担当者を招いて学生の相談を受けてもらいました。会場の制約もあり、参加企業を五十社に限定しましたが、いずれのコーナーも学生が列をなすほどの盛況で、就職戦線を闘かう学生の熱気が感じられました。

就職相談を受ける企業担当者

懇親会場横の学生食堂に、就職相談コーナーが開設され、「〇〇会社コーナー」「一般相談コーナー！」などを設けて企業の求人（入事）担当者を招いて学生の相談を受けてもらいました。会場の制約もあり、参加企業を五十社に限定しましたが、いずれのコーナーも学生が列をなすほどの盛況で、就職戦線を闘かう学生の熱気が感じられました。

総会と懇親会

就職講演会終了後、同会場において平成元年度総会が開催されましたが、総会の冒頭、今春脳梗塞で入院され、目下、リハビリ中の佐藤弘一会長にかわって、三木敏夫副会長を会長代理とすることを満場一致で決定しました。総会では主に、新入学生数の減少にともなう予算枠の縮少に、いかに対処すべきかについて活発な議論がかわされました。結論的には、不足分（一定枠）を特別会計より繰り入れる方向で結着しました。

総会終了後、懇親会に移りましたが、総会は三木会長代理のあいさつに続いて、学部校友会の茂沢副会長が来賓としてあいさつに立たれ、さらに当日校務多端の中を駆けつけて下さった阿田学部長よりお祝辞をいただきました。また懇親会には、就職相談コーナーに参加していただいたOB以外の企業関係者も多数飛び入りで参加していただき、当日参加した学生も含めて熱気に満ちたものとなりました。会はなごやかな雰囲気のうちに進行し、最後に小林副会長の閉会のあいさつで幕を閉じました。

30周年記念基金で笹森正氏表彰

三〇周年記念基金選考委員会より推薦された青森県在住の笹森正氏を、平成元年度の記念基金表彰対象者とすることを総会で承認・決定し、懇親会の席上で表彰・記念品を贈呈しました。笹森氏は、昭和四十八年食品経済学科卒業、大学院を経て東大研究生の後、郷里青森の地域社会研究所に勤務、その後青森大学助教授に転出し、現在は東北地域文化研究所長として、東北各地域の地域おこし事業、町づくりに取り組んでおられる。氏は現在国土庁の「地域おこしアドバイザー」の指名を受けており、こうした氏の活動に対する社会的評価が表彰の理由である。

加藤譲教授退任　古賀副手新採用

東大を退官の後、本学教授として着任された、加藤譲教授が、本年三月三一日付で退職されました。先生の在任は四年余と非常に短かい期間でしたが、この間先生は食品経済学科と食品産業研究という新しい流れを作り自から率先して食品産業研究の確立と後進の指導にあたられました。先生は本学退任と同時に、（財）農民教育協会農業研修所長に就任されましたが、わが学科に先生が残された大きな足跡が風化しないで眼々と継承されることを願い、心より先生のご活躍を祈念いたします。

加藤先生の退任と相前後して、今春食品経済学科を卒業された古賀実香さんが副手として学科に採用されました。古賀さんは現在学科の担任業務の補佐や、統計資料等の図書資料の管理とともに、校友会の仕事も手伝っていただいています。

（下窓敦彦）

〔学科の動き〕

科名変更20周年記念論文集発行

食品経済学科では、学科名を変更して今年で二十周年を迎えたのを記念して、一昨年来記念誌の発刊を企画していたが、研究担当の努力により今春農林統計協会より「現代の食品産業」として刊行することができました。記念論文集は食品工業の産業組織、食品企業経営、食品流通・食生活、食料生産・農業問題の四部構成で、わが国の食料経済にかかわる川上から川下にいたる全体の流れを、学科教員全員が分担執筆しました。本書は食品経済学の全領域を網羅するところまで至っておりませんが、食品経済学という新しい学問領域に切り込んでゆこうとする学科教員の熱意をうかがわせる書物であり、校友諸兄にもご一読をおすすめする次第です。

林学科校友会

後継者に明るい推薦入学制度

◇林学科◇

平成元年度より推薦入学制度が変更された。変更の主な点は、推薦入試の区分を、従来の付属・職業課程高校および体育の推薦に加えて、①普通課程高校（指定校）②農獣医学部関連産業後継者③技能の推薦が新たに設けられたことである。

このうち②の後継者推薦は本学部に関連した地域産業の後継者またはリーダーとして、将来地域の活性化に貢献し得る人材の育成を目指すもので、日本大学で林学教育を受けた後継者が多くでることは林業後継者問題にも明るい展望となる。

吉原君ら六名

林学校友会長賞を受賞

平成元年度林学校友会長賞の授与式が卒業式に行われ、吉原尚史君（森林生産・埼玉県庁）、赤塚恵子さん（林業経営・鹿島建設）、大森秀一郎君（森林工学・富山県庁）、渡辺晋輔君（木材工学・愛媛県庁）、石井剛君（緑地保全・造園会社）に、片岡副会長より賞状並びに記念品がそれぞれ授与された。

今回の授与式は三回目となり、今後の林業界での活躍はもちろんのこと、校友会発展のためにも期待される。

林学校友賞を受賞した人たち

今年入学した20人の女子学生

期待される百五十四名の新入生

平成元年度入学式は、四月八日日本武道館で挙行され、林学科へ一五四名の新入生が入学した。最近の入学者の特徴としては、都市型傾向は依然続いているが、特に今年は女子新入生が二〇名と多かったことが挙げられる。この傾向は今後もしばらく続くものと予想される。

林学科が運動会で三年連続優勝

林学科校友会の幹事会が、去る十一月十二日、本学部第4会議室で開催され、各期の幹事多数が出席された。また、本年度の総会並びに懇親会は六月十二日、日本会館八〇一室で多数の来賓を招き開催された。総会では、今後本会がますます活発な活動が出来るよう話し合われた。

去る九月二十七日、平成元年度学部運動会が行われ、参加十二チームによる熱戦の末、林学科が三年連続の総合優勝を飾った。入学後、間もない新入生にとって、四年間を有意義に過ごせる第一ステップとなった。

3年連続総合優勝の林学科学生たち

幹事会と総会・懇親会

懇親会

幹事会

校友からのメッセージ

林学科三年生に対する進路ガイダンスが、去る平成元年十月二十一日に三年生全員を対象に開催されて、この催しは、売り手市場とされる学生有利の風潮に対し、担任からの警鐘の意味も含まれ、就職指導より石沢恒男氏、校友より東条哲氏（四十二年卒・日本ハイウエーサービス）、曽我千文さん（六十二年卒・東京都庁）、藤山泰二氏（五十八年卒・埼玉県教員）、市村邦之氏（六十二年卒・東京都林試）、二瓶利昭氏（六十一年卒・江間忠木材）、長田有司氏（六十二年卒・増沢合板）、橋本氏（六十二年卒・銘林）、四年生より、中川伸吾君、向川克展君、柏木恭栄さん、山梨県林務部の小倉武氏より、大学生活後半をどのように過ごせば、就職に対し有利になるかについて貴重な講演となった。

（学）（科）（の）（動）（き）

＜実験・実習＞

林学科は本年度三年次より新カリキュラムに移行中であるが、この十一月に、東京都より二級建築士及び木造住宅士受験資格の認定学科に指定された。新カリキュラムは、林産物の合理的な生産、加工並びに林産物の流通、さらに住宅産業を主体とする最終消費段階への参加に力をいれたものであり今後が期待される。このような中で、現一年次は、一般教養全体に、勝沢で奮闘中であり、林学実習でのスキー実習が水上演習林で予定されている。二、三年生は多くの実験実習に余念がなく、四年生はかつてない売り手市場の就職戦線を終え、国家資格・地方上級試験に十八名が合格した。目下卒論と最後の卒業試験に取り組んでいる。

スキー実習

＜人事＞

本年四月より岩田隆太郎、宮野則彦の両氏が、新たに助手として林学科へ採用された。岩田助手は京都大農学部を昭和五十三年に卒業、同大学院（博士課程）を修了後、住友化学工業に勤務、専門は森林・林産昆虫学である。宮野助手は、本学部林学科を昭和五十七年に卒業後、本学部大学院（修士課程）を修了。専門は緑環境工学である。今後の活躍が大に期待される。

同窓会の開催

一期同窓会が平成元年十月二十八日に盛岡市チサンホテルで開催され、近いうちに林学科教員と懇談会を開くことについて検討が行われた。

十三期同窓会は、平成元年十一月十一日に裏会館に恩師、加藤、佐々木の両先生を迎え行われた。卒業生三十九名中、十三名が出席し、五年ぶりに旧交を温め、二年後の再会を約束した。

三十六期同窓会は、平成元年七月二十一日に、新宿プリンストンホテルで、旧担任、本江先生、井上出席のもとに開催された。今回が卒業後最初の集まりであり、今後の同会の幹事役員を選出し、近々二回目を行うこととした。

訃報

昭和四十三年より本学科の教授をお勤めになられた荻原貞夫先生は、本年七月九日、逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

（井上公基）

桜水会

カリキュラムや教員の配置変え

新時代に向け再検討

◇水産学科◇

昭和という激動の時代を乗り越えた我々日本人は、次の時代が穏やかに平和にすごせることを心に描き、新しい元号「平成」のもとに本当の意味での戦後を築くことが望まれる。これは水産界にも見のがすわけにはゆかない大きな節目である。水産学科で船を熱望し、実現、新コースを設立、しかし、日大母とともに別コースとなり卒業生も水産学科の所属となっているものの、船という限られた資格取得の学生が一つの点になってしまったことは寂しい限りである。

昭和四十八年四月に教授となられ昭和五十四年三月に退職されるまで、学生指導に余念がなく、その気さくなお人柄に皆はつとしたものである。海藻の古い標本をお持ちしても、磯採集に出かけた折もたびたびところに種の同定までして頂ける、いつも赤い顔をしておられた懐かしい先生で、天上になられた今もきっとにこにこと見守っておられることでしょう。桜水会々員は先生をしのんで心からご冥福をお祈りさせいただきたいものです。

門田学部長　副総長に就任

学務・入試事務を担当

水産学科一期生の門田定美農獣医学部長は平成元年十月二十七日に開催された本学部長会議および理事会の結果、九月一日付で日本大学副総長（三人選任）の一人として学務、入試事務担当ということで就任が決定された。実に桜水会員としては喜ばしいことであり、お祝い申し上げたい。

しかし、その職務を推察すると、学部の責任と日本大学全体への配慮も要求されることから心身ともに十分ご自愛され、ご活躍を祈念するのみである。

科内では日比谷・京・大竹茂夫教授の定年退職を機に、カリキュラム、教員の配置変えおよび研究室の名称変更など多くの問題について新時代に向け再検討に入っている。学生の教育指導上説明不足にならないよう配慮しつつ行っている。

平成二年四月一日より以下の教員配置および研究室で学生指導にあたる。

水産生物学研究室
東　禎三教授
広瀬一美助教授
小橋一夫専任講師
朝比奈　潔専任講師

水産生物化学研究室
西出英一教授
内田直行助教授
安齋　寛助手

漁業生産学研究室
添田秀男教授
金原和征助教授
小島隆人助手

水産増殖学研究室
出口吉昭教授
杉田治男専任講師

海洋・資源学研究室
門田定美教授
広海十朗専任講師

資源情報学研究室
四之宮　博教授
吉原喜好助教授
鳴村哲哉専任講師

寺内　誠専任講師

水産利用学研究室
望月　篤助教授
松宮敦弘助手

おくやみ

新崎盛敏元日本大学教授は十月二十六日に逝去されました。先生は昭和十一年東京帝国大学農学部水産学科を卒業され、日本の水産植物学の生き字引として幅広い見識をもたれ、昭和二十六年四月に日本大学の非常勤常勤講師に、

桜水会の懇親会風景

磯採集（魚類学研究室）

事務局だより

会長（添田教授）を中心として事務局長の金原助教授もがんばって桜水会発展のため努力しておりますが、卒業生の皆様の一人一人のご自覚により盛り上げていただくところ大であります。そこで、住所変更、勤務先変更があれば必ずご連絡と終身会費の納入を願いますようお願い申し上げます。

平成元年度桜水会代議員および総会が六月二十二日（木）五時三十分より日本大学会館八〇一講堂で開催され、事業報告、決算報告、予算案審議等約七十名の出席のもと無事終了いたしました。今年は日本大学百周年記念という大きな節目の年で、我々も桜水会も傍校友会に遅れを取らないよう、おのおのの道で足もとを二層かため、次の二十一世紀を迎えたいものであります。

（廣瀬一美）

工学会

◇農業工学科◇

創立25周年祝賀会

日本大学会館で盛大に

本会の創立25周年記念祝賀会が昭和六三年九月二十四日、卒業生・ご来賓の方々合わせて百二十余名の出席を得、日本大学会館において行われました。祝賀会は一川宏也工学会会長のあいさつに始まり、庄川洋一農獣医学部校友会会長、門田定美農獣医学部長、千葉　豪学科主任、その他多数のご来賓の方々より、ご祝辞を賜った。

その後、佐藤弘一前農獣医学部校友会会長のご発声により、乾杯が行われて祝宴に入り、途中に福引等のアトラクションも加わって祝宴は大いに盛り上がり、校友は会場のあちらこちらで招待の近況の交換と懐旧の再会に、時の経つのを忘れて歓談されていた。

祝宴も終わりに近づき、中には久しい校友との再会を喜って別れを惜しむ場面も見られが、5年後（平成五年）に開催される創立三十周年記念式典の再会を誓って帰路につかれた。ご出席の皆様に心からお礼申し上げます。

工学会創立25周年記念祝賀会風景（日本大学会館で）

＝学科の近況＝

☆山澤先生が学務担当に☆

山澤新吾教授は、平成元年三月二十一日より学部執行部の学務担当に任命されました。先生には、学部・学科の発展のためにますますのご活躍を期待申し上げます。

〔人　事〕

農業工学科卒業生で昭和六十年四月から副手として勤務されていました田上もと子さんが、平成元年三月三十一日付けで退職され、その後任として、農学科卒業された羽村文乃さんが副手として採用されました。

羽村文乃副手

本学科の華として、今後のご活躍を期待しております。また、田上さんは、高等学校の教諭として頑張っておられます。

☆例年にない好調な就職☆

平成元年度は、例年になく上場企業への内定と国家・地方公務員の合格者が多く、とくに公務員関係では、国家Ⅰ種一名（OB）、Ⅱ種五名、地方上級（県）六名である。これは、偏えに公員皆様のお力添えによるものと教員一同、感謝いたしております。

☆一年次の見学・研修旅行☆

本年度も、教員十一名、新入生百六十名（内女性七名）が参加し、一泊二日の日程で埼玉県下の、農業工学に関わる施設、農業経営事情等の見学・研修旅行が実施されました。学生には、今後の専門の授業内容を理解する上で、極めて有意義であった。

工藤謙一氏が精密工学会賞受賞

工藤謙一氏

工藤謙一氏（昭和五十八年卒、六十年三月大学院修士課程修了、現プリマハム㈱中央研究所）は東京大学生産技術研究所の樋口俊郎助教授らとの共同で、動物の受精卵等を切断・細胞内部の核酸の入れ替えができる高精度のバイオ用マイクロマニピュレータを開発し、精密工学会賞を受賞されました。心からお祝い申し上げるとともに、今後のますますの研究のご発展をお祈り致します。

（石川重雄）

工学会静岡県支部だより

静岡県支部は、十年前の昭和五十五年に吉川宏一氏（四十五年卒）らが中心となって設立した。設立当時は一期生が卒業してから七年目ということで会員が二十名程度と少なく、寂しい感があったが、現在では皆さんが越子中間となり、そして各職場にあっては中堅として活躍している方も多く、頼もしい限りである。

平成元年二月末には一川宏也工学会会長、白井医工、辻　厚志両先生のご臨席を仰ぎ、親睦会を開催し、和やかな中に有意義な一時を過ごしました。

本県は、第一次から第三次までの産業活動が多彩に展開されておりますが、その発展は自然との調和が保たれていることが必要であり、そこには早く農業工学を学んだ者の必要性がより高まって来るものと予想されます。今後、より活発な支部活動を行い、お互いに情報交換をし、同時に会員の絆を強めて行きたいと考えております。最後に会員皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

（支部長・吉沢弘隆）

ノースカロライナ州立大学メモリアルタワー前にて

昭38年卒和　世良田　和　寛

―海外留学を終えて―

私は、昭和六十三年度日本大学中期海外派遣研究員として、平成元年三月二十六日より五月一日間、ノースカロライナ州立大学（米国）に留学する機会を得、主として、農業機械に関するシュミレーションについて、当大学教授ファン博士のご指導を頂いた。また、ブラジルでは八月三十日より約三週間と短い期間ではあったが、サンパウロ州内の大学、研究所、農場及び工場等を視察することができ非常に有意義であった。これは偏えに学部長、諸先生方のご指導と工学会会長一川宏也氏、会員皆様方のご支援のたまものと心からお礼申し上げます。

アメリカでの生活は州都ローレー市内で大学に近いアパートで、自炊生活を行った。滞在期間中カナダ・ケベックでASAEの国際学会が開催され、これに参加するため、旧アメリカ十三州のうち八州を通り、往復二千五百マイルの工学会会長一川宏也氏、会員皆様方のご支援のたまものと心からお礼申し上げます。

アメリカでの生活は州都ローレー市内で大学に近いアパートで、自炊生活を行った。滞在期間中カナダ・ケベックでASAEの国際学会が開催され、これに参加するため、旧アメリカ十三州のうち八州を通り、往復二千五百マイルの車旅行は印象深いものがあった。

ブラジル・サンパウロ州では多くの日系人によって案内を受け、ポルトガル語のみ知らない私には、いろいろな面で助けになった。国内はインフレ、治安が悪い等の問題が多い。しかし、陽気なブラジル人はアメリカ人と違い、日本的な人間味が感じられた。日系人は自分の住んでいる国を立派にするよう努力している。ブラジルには豊富な資源、技術等が潜在的にあり、前述の諸問題が解決されると、真によい国である。一日も早く、国民の生活が豊かな国になることを願う次第である。

食品工学会

◇食品工学科◇

日本大学会館で総会

出席者は80名を超える

平成元年度の食品工学会の総会及び懇親会が、平成元年十月二十八日（土曜日）日本大学会館で開催されました。

総会は、最初に昭和六十三年度の事業報告と会計報告が審議され承認されました。次に平成元年度の事業計画及び予算案が審議されました。事業計画では、平成三年が食品工学会創立二十五周年にあたるため、その準備委員会を発足させることが役員会より提案され承認されました。

懇親会で恒例のビンゴゲームを楽しむ

懇親会は、十八時より盛大に開催されました。当日は、あいにく雨模様の天気でしたが、来賓、校友を含め八十名を超す出席者が集まり華やかな会となりました。庄川洋一学部校友会会長、門田定美学部長、喰野哲男学科主任のごあいさつに続き、露木英男研究室による乾杯の音頭で、宴もたけなわとなりました。席上、昨年三月食品工学科を退職された春田三佐夫先生、大武田之先生をはじめ、新任の山内邦男教授、矢野信醴教授より、機知に富んだごあいさつを拍手をもって承認されました。

懇親会は、十八時より盛大に開催されました。当日は、あいにく雨模様の天気でしたが、来賓、校友を含め八十名を超す出席者が集まり華やかな会となりました。庄川洋一学部校友会会長、門田定美学部長、喰野哲男学科主任のごあいさつに続き、露木英男研究室による乾杯の音頭で、宴もたけなわとなりました。席上、昨年三月食品工学科を退職された春田三佐夫先生、大武田之先生をはじめ、新任の山内邦男教授、矢野信醴教授より、機知に富んだごあいさつをいただきました。また、来賓の先生方や他の校友会分会役員方のご紹介、ごあいさつもありました。

アトラクションでは、恒例のビンゴゲームが行われ、野田義人会長よりご寄付いただいたCDラジカセに人気が集中していました。春田先生の万歳で中締めとなり、校友の皆様は、二次会のほうへ移られていかれたようです。

ご出席の皆様にお礼を申し上げるとともに、次回の総会、懇親会にも、ぜひご出席くださるようお願い申し上げます。

新任の先生方より一言

矢野信醴教授

私は昭和二十六年に農水省畜産試験場に入り、発酵乳の乳酸菌が研究の出発点でした。乳酸菌の研究が進むにつれ、その利用には牛乳品質が重要ということで、芽胞菌や低温菌に重点が移っていきました。この間乳質改善の仕事で松井武夫先生や春田先生との長いお付合いが始まりました。昭和六十一年に農水省退職後、国際協力事業団の技術協力専門家として北京で二年間を過し、帰国後関係のかたがたのご配慮によって、春田先生のあとをお引受けして食品保蔵学研究室を担当しております。

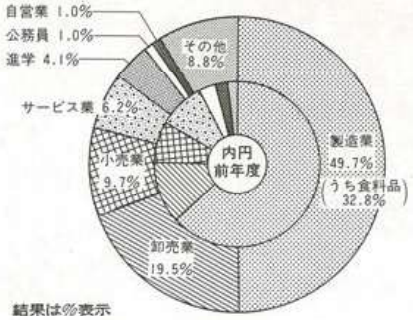
食品中では種々の菌が互いに影響を受けながら生きており、この相互作用が環境条件によってまた影響を受けることになります。このような多ダイナミックな面を微生物生態学の視点にウェイトをおいて追究し、食品の微生物制御のためのアプローチを試みようと考えています。また食品の多様化、国際化に対応して微生物学的試験法の改良、開発を手掛けていくことにしています。

山内邦男教授

平成元年四月より、本学部食品工学科に勤務することになりました。私は昭和二十七年に東京大学農学部農芸化学科を卒業し、同学科の畜産物利用学講座初代教授佐々木林治郎先生の門に入り、研究生活を始めました。当時は学生時代に戻ったような異質な学際的な研究を行いました。これは社会的要請をいろいろ考えての結果でした。

本学においては、再び本来のテーマに立ち返り、肉や乳や卵の製造・品質に関連した成分変化を特に蛋白質を中心に研究したいと考えます。たとえどんな小さな現象でも若い諸君が実験・実習の場で自ら見出した問題点を専重し、深く追求してゆく手助けをしたいと思います。教室では専門的なことに加え、我々に食糧を提供する生物の大切さと不思議さ、そして健康に係わる食品工学の重要性に視点をおいた講義をしてゆきたいと考えています。

平成元年卒業生の就職状況



結果は%表示

原構造、生理的機能に関する研究等、いわゆる畜産製造学とかなり異質な学際的な研究を行いました。これは社会的要請をいろいろ考えての結果でした。

本学においては、再び本来のテーマに立ち返り、肉や乳や卵の製造・品質に関連した成分変化を特に蛋白質を中心に研究したいと考えます。たとえどんな小さな現象でも若い諸君が実験・実習の場で自ら見出した問題点を専重し、深く追求してゆく手助けをしたいと思います。教室では専門的なことに加え、我々に食糧を提供する生物の大切さと不思議さ、そして健康に係わる食品工学の重要性に視点をおいた講義をしてゆきたいと考えています。

◆事務局から◆

平成三年、食品工学会は設立二十五周年となります。平成元年度の総会において、その準備委員会の発足が承認されました。事務局では、校友の皆様に広くご参加いただくことを願っております。ぜひご協力くださるようお願い申し上げます。

また、二十五周年の記念行事の一つとして、会員名簿の作成が考えられております。転居などで住所が変られることがありましたら、事務局までご連絡くださるようお願い申し上げます。

（千野　誠）

学科）内）の動向

平成元年三月、食品製造学研究室の大武田之教授と食品保蔵学研究室の春田三佐夫教授が、定年のため退職されました。大武田先生は昭和五十八年に、春田先生は昭和五十二年に食品工学科に就任され、以来、その教育に対する情熱と研究熱心さには定評がありました。両先生には、引き続き非常勤講師としてお越し願っております。お二人のますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

なお、お二人の後任として、食品製造学研究室には内邦男教授が、食品保蔵学研究室には矢野信醴教授がそれぞれ就任されました。

好調な就職状況が続く

昨年三月、二千四期生百九十五名が卒業しました。この数年では最も多い卒業生でしたが、好調な就職状況に支えられて、就職に対する苦労は少なかったようです。その状況をまとめましたので覧ください。（図参照）

例年通り、製造業への就職が最も多いのですが、昭和六十二年度に比べ減少しているのが目立ちます。中でも食料品製造業は四九・一%から三一・八%へと大きく減少しています。

拓友会

◇拓植学科◇

原宿で総会開く

山沢副会長が辞任　後任に浜口理事が

平成元年六月二十四日午後四時から平成元年度の拓友会総会・懇親会が、原宿「南国酒家」で開かれました。

――――――――

議事が滞りなく審議・了承され、了承されました。

この研修旅行も、平成元年度からは藤沢校舎における学内研修に変わりました。

藤沢校舎が整備され、学内で充分研修ができるようになったことが一番の理由です。

第二講義室での研修、第二食堂二階での懇親会など、今年度ははとんど上級生の企画運営によって行われました。

五月十三日（土）午後一時から研修が始まり、担任による学習指導の後、上級生による学生活の目的と実行、進級、アルバイトと学業の両立、部活と学業の両立等のアドバイス、海外実習体験談、研究発表が行われ、中身の濃い研修になりました。

ソフトボール大会

六月二十五日（日）平成元年度のソフトボール大会が、藤沢校舎グラウンドで行われました。

当日、参加予定は三〇チーム近くありましたが、前夜から早朝にかけて大雨が降ったため、中止と思ったチームもあり、結局十六チームによって行われました。

優勝は国際経済第二ゼミ、二位はスペインゼミで、試合後の懇親会で表彰されました。

ゼミ夏期研修旅行

三・四年次のゼミナールは現在十三ゼミあります。夏期研修旅行については、いろいろな所を見学したり、調査します。これは学生も積極的に企画に参加するなど重要な行事の一つです。平成元年度の研修地は次の通りでした。なお、併せて指導教員も紹介します。

国際経済第一ゼミナール（滝川勉教授）　福島市
国際経済第二ゼミナール（長谷川勝男助教授）　福岡市
国際協力ゼミナール（金沢夏樹教授、芦沢和夫専任講師）　高崎市
経営ゼミナール（宮崎宏教授、早川治専任講師）　富士宮市
経済第一ゼミナール（遠藤浩一教授）　千葉県千倉町
経済第二ゼミナール（上原秀助教授）　黒磯市
拓植第一ゼミナール（井上嘉丸教授、緒方行広専任講師）　群馬県吾妻郡
拓植第二ゼミナール（井上雅出助教授）　日光市
環境農学ゼミナール（広瀬昌平教授、榎丈敬次、村井正之専任講師）　秦野市
スペインゼミナール（柳沢豊教授）　栃木県馬頭郡
中国ゼミナール（陳仁淵助教授）　下田市
英語ゼミナール（相澤昭夫専任講師）　日光市
インドネシアゼミナール（藤田泰伸専任講師）　式根島

アジア太平洋博覧会を見学研修（国際経済第2ゼミナール）

拓植学科の学術研究発表会

平成元年度は十二月十日（日）藤沢校舎本館第二講義室で行われました。

特別講演は滝川勉教授、上級生による発表は「私の海外体験」と題して、三年次の浜崎敦君が英語で、同じく三年次の武田昇君が・スペイン語でスピーチし、地方公務員に合格した四年次の岩下智深君が「公務員試験の経験」を発表しました。

留学生を代表した曾繁育君（台湾出身）のスライドを使った興味ある発表もありました。

休憩の後、学生によるゼミの紹介も行われ、それぞれ自分の所属するゼミの特色をアピールしました。

その後、第二食堂三階に移り、懇親会が行われました。

卒業アルバムを作成中

ゼミナールを中心に作成委員会をつくり、毎年立派な卒業アルバムが作られています。

卒業記念パーティーの開催

実行委員会が結成され、年々盛大になっています。

（緒方行広）

拓植学科の学生行事

拓植学科では、伝統的学生が主体になって行う行事があります。

これらの行事に積極的に参加した学生にとっては、卒業後の懐かしい思い出になっていると思われます。

そこで、今年の場合について紹介します。

一年次の研修

大学に入ってまだ間もない頃、研修旅行などで、たまたまバスの隣に座ったのがきっかけで、長い付き合いになっている人は多いと思います。指導する上級生がすごく大人に見え、頼もしく見えたものです。

むつあい会

◇短期大学部農業科◇

軽井沢研修旅行（三楽オーシャンのワイン工場見学）

卒業生の就職と進路の状況

三月（旨）三名の卒業生を送りましたが、その進路状況は、学部進学四十七名（四十六㌫）、就職二十八名（二十六㌫）、自営十名（十㌫）となっております。主な就職先は農協（四）、造園会社（四）、糖菓会社（二）、金融関係（四）、不動産会社（二）、情報サービス（二）、製造関係（二）その他となっております。

むつあい会の近況

平成元年度の第一回の理事会は二月四日（土）藤沢校舎第二会議室において開催され、総会提出議案について審議されました。平成元年度の総会は三月十八日（土）藤沢校舎第二会議室において開催され議長に四期の野村健作氏を選出し、昭和六十三年度の一般経過報告、事業報告及び会計決算報告、平成元年度の事業報告と会計予算案等について熱心に審議され原案通り承認されました。とくに農業科の定員削減にともなう終身会費の納入と今後の運営方法について討議がなされました。総会終了後十五時～十五時三十分まで農業科斉藤教授より「アメリカの園芸」と題し講演会が行われました。

講演会終了後は第二食堂において来賓多数出席のもと、なごやかな懇親会が行われ旧交を温めるよい機会となりました。

事務局から

訃報　計見良宣先生　二月十九日心不全のため逝去、計見先生は三十四年～五十年まで十六年間教授として学生の教育に当たられました。心よりご冥福をお祈りいたします。

むつあい会では会員相互の親睦のために年一回の会報を発行し、会員のお手元に届けております。

本年で十三回となりますが、皆様からのニュースをお待ちしております。また、住所、氏名、勤務先など変更になった場合はお手数でも事務局までご一報下さい。

終身会費（年万円）未納の方は「郵便振替口座　横浜〇―一七〇四九・藤沢市亀井野一八六六・日本大学農獣医学部藤沢校舎むつあい会」あてお納めできるようお願い申し上げます。

（斎藤忠雄）

昭和63年度むつあい会会計決算報告

（昭和63年12月31日現在）　事務局長　斉藤忠雄

収入の部

科目	予算額	決算額	増△減	摘要
繰越金	720,263	720,263	0	10,000円×13名　9,930円×63名　5,000円×2名
終身会費	1,000,000	775,470	△224,530	4,950円×1名　4,930円×1名
寄付金	50,000	35,000	△ 15,000	3名×5,000円　2名×10,000円
交付金	350,000	460,000	110,000	交付金 360,000円　発送費 100,000円
雑収入	100,737	244,798	144,061	定期預金普通預金利息、総会費お祝い金
合計	2,221,000	2,235,531	14,531	

支出の部

科目	予算額	決算額	増△減	摘要
I 経常費	990,000	753,067	△236,933	
① 事務費	90,000	72,820	△ 17,180	事務用品、封筒、印刷、郵便振替加入者負担金
② 人件費	150,000	126,042	△ 23,958	宛名書アルバイト料、事務局手当
③ 旅費交通費	100,000	43,640	△ 56,360	理事会、役員会、編集委員会交通費
④ 通信費	350,000	334,735	△ 15,265	総会役員会の案内、会報名簿発送
⑤ 会議費	200,000	140,830	△ 59,170	理事会、編集委員会 等会議費
⑥ 交際費	100,000	35,000	△ 65,000	学部校友会、その他の慶弔金
II 事業費	650,000	373,650	△276,350	
① 総会費	300,000	213,700	△ 86,300	
② 名簿作成費	0	0	0	
③ 会報費	150,000	139,950	△ 10,050	むつあい会々報12号
④ 協力費	200,000	20,000	△180,000	卒業記念品、卒業パーティー
III 積立金	500,000	500,000	0	
IV 予備費	81,000	30,000	△ 51,000	
小計	2,221,000	1,656,717	△564,283	
繰越金	0	578,814	578,814	
合計	2,221,000	2,235,531	14,531	

財産目録

科目	金額	摘要
現金	77,006	
普通預金	281,831	三菱銀行藤沢支店　4339381
定期預金①	3,914,948	三菱銀行藤沢支店　S8045822
定期預金②	1,013,561	三菱銀行藤沢支店　0272162
合計	5,287,346	

監査証明

昭和63年度むつあい会会計決算について慎重に監査した結果適正に処理されていることを認めます。

平成元年1月28日

監事　横関敏治㊞

支部だより

会員一同で困難を克服

神奈川県支部 農獣医部会 発足以来12年を迎える

本年は、日本大学創立百周年に当たり、大学を挙げての祝典が先般執り行われました。神奈川県支部も、校友会として独自に六月二十九日に祝賀の会を催しました。紙上ではありますが、心からお祝い申し上げます。

顧みますれば、農獣医部会は発足以来十二年を迎えました。

もともと、神奈川県支部は古くから活動しておりましたが、農獣医部卒業者は一一二名が参加すべき程度でした。昭和五十一年に会は大飛躍をとげ、大きくなり、農獣医学部卒業生も多数参加するようになりました。しかし、県支部からの案内通知の数も限られており、もっと多くの卒業生が参加できる会を作りたいとの願いから、有志が集まり何回かの会合を重ねた末、昭和五十三年の秋に横浜中華街の華正楼で農獣医部会が誕生いたしました。何人集まるかなら不安でしたが、百名を超す会員が参加し、来賓を含めて百二十名の大盛況な発会式が開催できました。

しかし、農獣医部会の運営は困難でした。終身会費・年会費はいっさいいただかず、懇親会費のみを徴収している校友会では、幹事会費はその都度各自が負担し、あまたなほど会の財政の一助にと積みたてるような状態でしたが、会員一同が一体となって会を運営し、十二年を迎えました。

総会は去る十月一四日に藤沢校舎食堂棟3階の大会場に校友、来賓百二十五名が集い、酒を酌み交わし、旧交を温め、大いにもりあがりました。今年は会員として青果物のセリ売りを行いました。これは横浜丸中青果K.K.のご好意によるもので、松茸をはじめ、柿、メロンなど新鮮な食料品が売られ、時ならぬセリ声に会場が大いに沸きあがり、酒も一段と進み、談笑のうちに会も進み、恒例の大福引の抽選もすみ、無事に終了しました。

しかし、青果物の売れゆきが良すぎたため、事務局が大儲けをしてしまいました。反省の役員会では、来年の懇親会には、今年の儲けを会員に還元して、もっと楽しい会を開催することを決めて来年にのぞみます。

（会長佐々木弘康）

長尾教授を招いて 企業見学研修会

―大阪支部―

校友会総勢20名が参加

青年部総会に出席した人たち（大阪十三・ビクトリアで）

校友の皆様お変りございませんか。日頃は校友会活動にご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

平成元年度の企業見学研修会は近畿地区出身の農獣医学部在学生及び獣医学科の長尾壮七先生のご来席を得て校友会員共総勢二〇名により八月八日に実施されました。この行事は、優秀な後輩諸君を近畿地区企業へ勧誘すること及び大学と大阪校友会の連携を強めることを目的に三年前から始まりました。

見学先は、本学出身の先輩、同窓が経営または幹部として活躍されている企業に順次お願いしております。本年度は蜂屋乳業株式会社茨木二八年本）の冷菓、冷凍食品の製造工程及び京都府宇治市の株式会社微生物化学研究所（社長・佐々木文存氏・獣医一一年卒）の動物用ワクチン開発研究ならびに製造施設を見学しました。

両社の社長さん初め幹部の方々のご高配により、活気溢れる事業の実態を心ゆくまで見せていただき感激しました。またご多忙中を遠路ご参加下さいました長尾先生からは、各見学先において、日頃のご研究の成果に基づく適切なご助言をいただき、さらに大学における教育の現況について最新の情報を提供せいただきました。参加した学生を初め全員が満足の一日を過ごしましたことは、ひとえに長尾先生初め両社の方々のご支援によるものと一同感謝いたしております。

商工会議所ホールで総会

山梨県支部 新支部長に遠藤晴正氏を選出

本年度に実施されたその他の行事では、大阪校友会総会（十一月十一日東洋ホテル）、恒例の新年会、忘年会、日大出身力士激励会、ゴルフ大会、花火大会の他に、古都巡りハイク（奈良）、一泊旅行（伊勢・志摩）、鋼釣り大会（宮津）、歴史観光旅行（萩・津和野）、学術講演会「山田興義伝」・日大三祥都彦氏等がありました。

皆様、来年度の校友会行事にも奮ってご参加ください。

（大阪校友会会長　村田行夫）

日本大学農獣医学部校友会山梨支部の会員の皆様にはお変わりありませんか。今年は県内自治都市においても日本大学様一〇〇周年を迎えるところがありまして各地で博覧会などの催しがあるところが続出し、甲府市においても例外ではなかったことは感慨に新しいところであります。農獣医学部校友会山梨県支部におきましては、初代支部長小沢寛氏が死去されて、支部活動が休眠していましたが、昭和六十三年十二月三日甲府商工会議所ホールにおいて総会を行い新役員を決定しました。

新支部長に農芸化学科昭和三十四年卒の遠藤晴正氏、事務局長に食品経済卒の未木隆一氏、事務局代表理事に丹沢慶仁氏（食品経済卒）が選出され、さらに代表理事十名が選出されました。

相前後して、平成元年二月十八日、日本大学校友会山梨支部の新役員改選の結果、新支部長に理工学部卒の田中高雄氏が選出され、理事に農獣医学部校友会より久保信夫氏、藤森義一氏、それに遠藤晴正氏の三氏が任命されました。

さらに二〇〇周年募金の件、一〇〇周年記念誌「マイ・フェニックス」の入場券販売について協議しました。その結果、山梨県には六百枚が、うち農獣医学部校友会には百枚が割当てられました。四月二十五日から販売に入り、他学部校友に先だって五月二十日には百枚の割当を完了しました。各役員、校友の協力の賜物であります。

総会に先だってわれわれの記念講演会は、来賓の日本大学副総長・理工学部長の木下徳教授（日本建築学会長）が「高齢化社会と生活環境について」と題して記念講演され、二百余名が出席して盛大でした。

農獣医学部校友会山梨県支部はこれから全日大校友会と協力して百名参加の総会には、農獣医学部校友会十名が参加しました。当日は県農業祭りがあり、多数が欠席となりました。

五月二十九日農獣医学部校友会山梨県支部は、一〇〇周年の募金に協力し十万円を寄附しました。日本大学校友会山梨県支部は、一〇〇周年の総会を甲府市で開催することとして、全学部とも全面的に協力することになりまして、十月二十一日甲府市の古名屋ホテルホールにおいて開催しました。

これから全日大校友会と協力して名簿作りにいそしむ予定です。

（支部長　遠藤晴正）

高知県

安岡支部会長が死去

総会を開き新会長選任を

高知県下農獣医学部校友の皆様にはお変わりなくお過しのことと存じます。

本県に校友会支部を結成して早くも二年が経過しようとしていますが、既に会員の皆様にはご存知のことと思いますが、初代支部会長として支部結成にご尽力いただきました安岡元雄氏が肺ガンのため他界されました。

会長は昨年の春から体調を崩され、病院にて療養をしておりましたが、養生のかいもなく十月一日に帰らぬ人となりました。会長には校友会支部の設立にあたり、日夜を問わず尽力をされ、後輩の指導に当られたことも記憶に新しいところです。この功績を讃えるため、農獣医学部校友会ならびに食品経済学科校友会から二基の石碑が贈られました。本県からも校友会支部会員として二基の石碑を贈らせていただきました。また、たくさんの会員から弔電が届く程悲しい別れとなりました。今はただならかにお眠りくださいと祈るばかりです。

このようにして、二ヵ年の時間が経過いたしましたが、初代会長の意志に添うべく、支部活動の発展を期して次期総会の開催を検討しております。

この会が発行されるころには新会長を選任して日本大学創立百周年にふさわしい支部活動ができるよう努めて行きたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。最後に皆様のご健勝とご活躍を祈念し、校友会支部活動にお力添えを賜わりますことを切にお願いを申しあげ、高知県支部の現況報告といたします。

（写真は高知県支部設立当時のものです。前列左から二人目が故安岡会長です）

（事務局長・古谷　真）

支部だより

懇親と相互の研鑽に努力

秋田県支部 念願は課題の解決

年号が平成と変わり、新しい時代の始まりに、創立一〇〇周年を迎えたことは、まことに記念すべきことであり、同窓の各位とともに慶びにたえないところであります。

近年は、各般における情勢の変化が著しい時代であります。とくに、本県のような農業主産地を中心とする地域にあっては、農業情勢の急激な変化の与える本県経済への影響は非常に大なるものがあります。しかし、このような中にあって、苦悩しながら農業ならびに農業関連事業に活動している多くの同窓各位、また、押し寄せる国際化の波の中で、常に新しい活動所の開拓を余儀なくされる事業・活動されている多くの同窓各位方々、県下の各分野で地域活性化をめざして活躍中の各位においても、この意義ある創立一〇〇周年を意識して、さらに一層の努力を傾注しようと決意しているものと思われます。

県支部としても、この記念すべき時を契機として、県下各分野で活動中の同窓各位の決意を旨として、その決意を実すべく活動を促進する必要があります。

わが同窓の活動範囲は、非常に多岐にわたり、県下全域の、しかもあらゆる産業あるいは公共機関に重要な立場で関与しており、本県の将来、とくに、近く訪れるであろう二十一世紀の発展の原動力として期待されております。

しかしながら、われわれは、今、政治・経済・社会の各方面に解決すべき多くの課題をかかえながら二十一世紀を迎えなければなりません。

県支部としては、県下同窓間の懇親と相互研さんの機会を多く求め、二十一世紀を迎えるにあたっての課題解決に資したいと念願しております。各位の一層のご自愛を祈ります。

（佐藤秋太郎）